



上下水道事業の経営状況をお知らせします

上下水道局は、上下水道事業を将来にわたって安定的に継続していくために、「上下水道事業経営戦略(計画期間:2017年度～2026年度)」に基づき経営しています。今回は、2020年度の水道事業と下水道事業の経営状況をお知らせします。



水道事業

投資状況

南海トラフ地震などの大規模災害時にも安定的に水道水を供給できるよう、基幹管路と水道施設の耐震化を投資目標としています。

2020年度は、稲生、栄、牧田地区を中心に水道管の耐震化を行い、基幹管路の耐震化率は40.9%になりました。また、2017年度から実施していた住吉配水池の更新(耐震化)工事が昨年度に完成し、今年度は関連工事を実施しています。

水道事業の投資

	2020年度実績値	投資目標(2026年度)
基幹管路の耐震化率	40.9%	49%
水道施設の耐震化率	送水場	78.8%
	配水池	60.6%
		84%
		96%

財政状況

中長期的に健全な経営を行えるよう、計画期間を通して一事業年度の支払のために必要な運転資金の確保と、一人当たり企業債残高の現状維持を財源目標としています。

2020年度は、計画値よりも企業債の発行を抑制しましたが、住吉配水池の更新工事の実施に備えて2017年度と2018年度に企業債を多く発行したため、計画値より企業債残高および運転資金が多くなっています。

水道事業の財源

	2020年度実績値	財源目標(2026年度)
運転資金	29億円	約15億円以上を維持
一人当たり企業債残高	73.4千円/人 (145.7億円)	72千円/人以下を維持 (129億円)

※()内の数字は、企業債残高

下水道事業

投資状況

公共下水道事業は、汚水処理施設の新規整備や下水道処理人口普及率の向上を投資目標としています。2020年度は、牧田、玉垣、東磯山地域などを中心に整備を進め、累計整備面積は2,223.2ha、下水道処理人口普及率は59.5%になりました。

農業集落排水事業は、既に施設整備が完了していることから、維持管理費用の平準化を投資目標としています。2020年度は、計画値に比べ維持管理費用が抑制できており、計画どおり平準化ができています。

公共下水道事業の投資

	2020年度実績値	投資目標(2026年度)
累計整備面積	2,223.2ha	2,649ha
下水道処理人口普及率	59.5%	70%

財政状況

公共下水道事業は、経費回収率の向上と基準外繰入金の抑制を財源目標としています。2020年度は、計画値とおおむね同程度の水準でした。

農業集落排水事業についても、経費回収率の向上と基準外繰入金の抑制を財源目標としています。2020年度は、計画値に比べ良好な値となりました。

公共下水道事業の財源

	2020年度実績値	財源目標(2026年度)
経費回収率	89.1%	85%

農業集落排水事業の財源

	2020年度実績値	財源目標(2026年度)
経費回収率	62.1%	58%

※経費回収率:処理費用がどの程度使用料収入で賄えているかを表す指標